

助成事業実施報告書

団体名 そなえ

代表者・役職名 氏名 ホーム長 金本 秀韓



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

入居中の子どもたち、ケアワーカーの野外活動を通じた交流と社会体験

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

この法人は、社会的養護を必要とする子どもたち、また地域の家庭に対して、相談、支援を行うことで児童家庭福祉、ならびに地域福祉の増進に寄与します。
正会員 34名 賛助会員 60名 (平成31年4月1日時点)

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

社会自立に向けた訓練や豊かな経験は子どもたちの自立支援の取組であり、公共交通機関を使って野外活動をするという体験は意義がある。さらには、野外活動という通常とは違う体験を通してケアワーカーと子どもたちの関係性をより深める機会となる。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

大阪へ新幹線などの公共交通機関を利用してホームの子どもとケアワーカーで日帰り旅行へ行った。また、ユニバーサルスタジオジャパンなど現地の観光地も巡り、修学旅行のような内容とした。職員3名、子ども6名で参加した。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

公共交通機関の利用が初めての子どものおこり、こういった機会を通して子どもに足りない経験に気づくことができました。このように、様々な体験や機会を保障することで子どもの課題に気づくことができ、この気づきを子どもたちの自立支援に向けた具体的な取り組みに変えることができます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

公共交通機関の利用だけにとどまらず、子どもたちを自立へ導くためにその他さまざまな社会体験をさせる必要があり、その体験の質や回数が自立への鍵となることをこの事業を通して実感しました。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし
とりで FACEBOOK 参照

